

## 令和5年度 第1回岩見沢市総合戦略等推進委員会 議事録（要旨）

### ● 日時、出席者等

日時	令和5年8月29日（火）14時00分～15時10分
会場	岩見沢市役所3階 会議室3-5
出席委員等	委員8名、特別委員1名
傍聴者	0名
事務局等	事務局5名

### ● 議事録（要旨）

会議次第	協議内容
1 開会	<p>（事務局）</p> <p>ただいまから、令和5年度第1回岩見沢市総合戦略等推進委員会を開催させていただきます。本日は、時節柄何かとお忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>初めに、委員の変更がありましたのでご報告させていただきます。岩見沢市市政改革懇話会会長でありました堀利幸様が令和4年度末で退任されております。次に、岩見沢市町会連合会会長、千葉修様の後任といたしまして、同じく会長の米内山定雄様に委員をお引き受けいただいております。また、岩見沢市青年会議所専務理事、大和勝様の後任として、本日は欠席されておりますが、副理事長の中西良貴様に委員をお引き受けいただいておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
2 委嘱状交付	<p>ここで、新たに委員に選任されました方に委嘱状の交付をさせていただきます。恐れ入りますが、お名前をお呼びいたしますので、その場にご起立をお願いいたします。</p> <p><b>【委嘱状交付】</b></p> <p>（事務局）</p> <p>なお、中西良貴様につきましては、後日、事務局から別途交付させていただく予定となっております。以上で、委嘱状の交付を終了させていただきます。</p> <p>本日の委員会の出欠でございますが、木村様・石川様・山本様・関様・中西様よりご欠席の連絡をいただいております。</p> <p>次に、当委員会にご出席いただいております特別委員の方をご紹介します。</p>

## 【特別委員紹介】

(事務局)

なお、あと2名特別委員の方がいらっしゃいますが、一般社団法人北海道総合研究調査会専務理事 星野様、北海学園大学教授 鈴木 聡士様よりご欠席の連絡をいただいております。

それでは、本委員会の開催にあたりまして、企画財政部長の小泉よりご挨拶を申し上げます。

### ○小泉部長挨拶

企画財政部の小泉でございます。総合戦略等推進委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は大変お忙しい中、また重ね重ねではありますが大変残暑厳しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本年度、第1回の会議でございます。当市におきましては、現在、令和2年度に策定し、スタートいたしました第2期総合戦略に基づき、ICT環境を初めとする当市の強み、優位性を最大限生かしながら、地方創生という大きな目標に向かって取り組みを進めているところでございます。

本日お集まりの委員の皆様におかれましては、令和2年度委員の改選・更新がございまして、その際に委嘱をさせていただき、これまで、様々なお立場で他所高所からご意見を賜り、厚く御礼申し上げます。当初2年ほどコロナ禍で開催ができず、書面会議として対面での協議が滞っていた期間がございました。昨年あたりからこの会議も正常に開催できるようになり、今年1月の当委員会におきまして、速報といいますか、概略として申し上げさせていただきましたが、国におきましてはデジタルの力で地方創生を加速させるということで、本来、来年度まであと1年半ほど残っていた、これまでの「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本改正し、昨年末に新たに策定したデジタル田園都市国家構想総合戦略へと移行したところであります。

後ほど担当からも説明がございしますが、当市におきましても、この国の動きに付随というか、歩調を合わせて、見直し等を検討しているところでございます。

当委員会におきましては、私どもから様々な報告をさせていただきますので、その内容に基づき忌憚のないご意見をいただきながら、年度内を予定しておりますが、この見直し作業を進めてまいりたいと考えております。

簡単でございますが、以上をもちまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

<p>3 会長選任</p>	<p>(事務局)</p> <p>次に、本日出席しております事務局職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>【事務局紹介】</p> <p>(事務局)</p> <p>それでは早速ですが、次第に入らせていただきます。次第の3番目、会長選任でございます。</p> <p>堀利幸委員の退任によりまして、当会の会長が現在不在となっておりますので、新たに会長の選任を行うこととなります。本委員会の設置要綱第3条第4項により、委員の互選により会長を決めることとなっております。会長の選出方法につきましてお諮りいたしますが、いかがでしょうか？</p> <p>(事務局一任)</p> <p>ただいま事務局一任の声がございました。よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは事務局に案がございますので、ご説明いたします。</p> <p>事務局といたしましては、岩見沢市町会連合会会長として多くの経験を有しておられます、米内山委員にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか？</p> <p>(異議なし)</p> <p>(事務局)</p> <p>異議なしということでございますので、米内山委員に会長をお願いしたいと思います。米内山委員におかれましては、会長席の方にご移動いただきたいと思っております。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは米内山会長から一言ご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>4 会長挨拶</p>	<p>○会長挨拶</p> <p>ただいま会長に選任されました米内山でございます。</p> <p>委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>現在、全国的に人口減少や少子高齢化、こういったことが進んでいます。岩見沢も決して例外ではありません。このような中であっても成長を続け、市民生活の質を高めていく、かつ地域経済の活性化を図っていく。このことは、非常に重要なことだと考えております。</p> <p>岩見沢では以前から総合戦略による地方創生に取り組んできておりますが、令和4年6月に国によるデジタル田園都市国家構想基本方針が閣</p>

<p>5 協議事項  (1) 岩見沢市総合戦略について</p>	<p>議決定されたことを受けまして、今回の総合戦略の改訂を予定しているということでございます。</p> <p>委員の皆様には、活発な意見交換をしていただいて、これからのまちづくり、地方創生について、ともに考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。</p> <p>以上で、会長就任にあたり、私からのご挨拶といたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>ありがとうございました。それではこれ以降の議事進行につきましては米内山会長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>(会長)</p> <p>それでは、協議に入らせていただきたいと思っております。座って、進めさせていただきます。</p> <p>本委員会は、岩見沢市総合戦略等推進委員会設置要綱第2条の所掌事務の第1項第1号において、総合戦略に盛り込む政策基本目標および政策の重要業績評価指標の設定、並びに進捗管理について関することについて、審議および検討を行うこととなっております。</p> <p>事務局から資料について説明の後、活発な意見交換をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは事務局より説明をお願いいたします。</p> <p><b>【事務局説明】</b></p> <p>(会長)</p> <p>はい。ただいま事務局から資料に基づいた説明がありましたが、何かご質問などございますでしょうか？</p> <p>総論段階なのでなかなか質問は出しづらいかなと思っております。</p> <p>(委員)</p> <p>確認よろしいですか。5ページについて、今回の改訂は令和5年度中に改訂されるということで、令和9年までの5年間を計画期間という表現がありますが、令和5年度までは現行計画に基づく事業取り組みということで、令和6年度から9年度の計画というイメージでしょうか？</p> <p>(事務局)</p> <p>基本的に、5年から9年という形になりますが、今の現行の第2期総合戦略の中で、事業につきましては基本的に令和6年度末までとなっておりますので、事業の中身の見直しなどは伴いますけれども、基本的に</p>
-------------------------------------	--

期間が決まっているものについては、しっかり事業を継承しつつ、計画の中身を改訂するというようなイメージです。

(委員)

今のお話しの中で、残った部分についてそれを適宜組み替えしながら行っていくということですが、例えばその時代の流れによって、ある程度予算が整理できるとか、その分にちょっとかかる部分については、こちらを減らして少子化部分に当てようみたいな予算の組み替えということも含めた形で行って行くということでしょうか。

(事務局)

予算の組み替えというよりも、次の総合戦略の中でどういったことを重点的に取り組んでいくかという考え方が出てくると思います。それに基づいて多少、事業の組み替えや見直しなどが生じると思っています。

(委員)

結局、令和6年度で全部終わらせなければいけないとなった場合に、ある程度決められた予算の中で、その予算を消化するためのような事業を行うとなるともったいないと思っています。

せっかくならば、次の総合戦略に繋がる形で、ある程度先を見据えた形での予算の組み替えができるのであれば、より効果的に次のバトンへと繋がるのかなと思ったので、できる範囲でご考慮いただけたらと思います。

(事務局)

まず、第2期総合戦略を5年間やると言っておりますので、まず5年間は政策を見定めながら、6年まではやりましょうということです。

例えば、今年度医療費助成を拡充しておりますが、基本的には、この第2期総合戦略で掲げている事業については、減らさずに、むしろ増やす可能性はあるかもしれませんが、この5年間は予算的には別枠としてしっかり6年度までやっていきたいと思いますという考え方で、令和2年度に事業を入れさせていただいております。

ですので、基本的には今のレベルで6年度までやっていきたいと思っています。その中で、次の総合戦略ができる年度末において、実際に被っている6年の1年間をどうするかという点については、6年度そのままやって7年度から変えるつもりで今から考えていこうとするもの、それから前倒しでもう6年で変えてしまおうとするものと、大きく2種類が出てくると思います。

ただし、6年度で全くやめることは多分ないと思いますが、6年度で変わるものというのは、これから事業の形を、2、3回かけてお見せした上で、最終的には令和6年度の予算と合うということで考えています。

ですので、2年置くものと、その前に変えてしまうもの、両方考えて、それは事業ごとに決めていく。それは市役所内での議論もそうですし、こういう場を通じて事業を進めていきたいと考えておりますが、現時点で、これはやめる、これは入れると決めているものはありませんので、もう少しお時間いただきます。

(委員)

一番不安に思っていることは、デジタル化のスピードが速すぎるということだと思います。例えば店の例で言うと、光回線の時代になっているのに、未だにISDNを使っていて、予算が付け替えられないというような、ちょっと段階が低いところで予算を費やしてしまって新しいものに対応できない状態で予算を消化してしまうといったことになるのであれば、少しもったいないなと思うところがあります。

特にChatGPTを始めとした生成AIなどがどんどん進んでいる中で、そういった話もこの総合戦略には入ってくると思いますが、事業の組み替えがあったにせよ、効果的な予算の使い方について、流動的にといただけますか、柔軟に対応していただけたらと思います。

(事務局)

令和3年度の計画2年目の際に、一度報告させていただいておりますが、登載事業の一部組み替え等を行っております。このようなことは今後も行っていきたいと思っております。

(会長)

実際、お金の話になれば費用対効果だとか、色々なことが出てくると思いますので、これから具体的な話の中で、皆さんの意見をもとに検討させていただくという形で進めていきたいと思っております。

(委員)

資料の8ページのところで人口の話が出ていました。令和2年の国調の確定値は出ていますが、それに基づく社人研の推計が未公表ということで、この辺を待って、人口ビジョンも改訂する予定でしょうか？

(事務局)

これまで、総合戦略の策定に当たり、その前提となるデータでもありますので、人口ビジョンも合わせて策定しておりましたが、まず一つは

国が2年前倒しして、総合戦略を改訂している今、岩見沢市もそれに合わせて、2年前倒しして改訂しようとしていること。それが一つと、もう一つは社人研の推計の公表が遅れているということがございますので、まずは総合戦略の改訂を先んじてさせていただいて、その後、社人研の推計が出た時点で、人口ビジョンの見直しも検討していきたいと考えております。

(会長)

昨年の287人という出生数は色々な場面で論議されていると思いますけども、これからの将来推計というのは難しいと思います。誰が考えてみても、人口は減るだろうという中で、こういった色々な戦略を組めるのが一番いいのかなと思います。それについても、見直しをかけながらやらざるを得ないと思います。

(委員)

世の中の的に色々多様化してきていることが多くて、いろいろな課題に対応していくには、人材不足ということをよく言われています。今月8月号の広報でも職員の募集がありました。岩見沢市として、現在、どれぐらい人が足りないのか、今後の戦略的な意味で参考意見として教えていただければと思います。

他の市町村では、退職などにより、職員がいなくなった後、なかなか補充ができないということで、今までは地元出身者を中心にやってきて間に合っていたけども、充足できないということで、近隣の市町村から人材を募集して、何とか間に合わせているという話も聞きました。岩見沢に関してはそういうことはないだろうと私自身は思っていますが、参考として知りたいと思い、述べさせていただきました。

(事務局)

職員数の話ですが、岩見沢市におきましては、採用があっても人が集まってこないですとか、そういった問題は今のところは生じておりません。

採用は、基本的に退職した人数や変化によるところを充足するような形ですが、一つ考え方としては、今後の財政状況、そういったものを見ながら、ある程度人数をこれだけ採用していこうという定員管理計画を昨年度末に策定しております。その定員管理計画に基づいて採用を毎年行っていますが、人が集まってこない、足りていない、といったことは今のところ生じていないところでございます。

(事務局)

今年度から定年延長が始まりまして、2年かけて1年遅らせるイメージで定年が延びていきます。延びていくということは、10年経つと、今いない60歳から64歳の職員が増えるということになります。

先ほど、定員管理計画の話も申し上げましたが、人口が減りますので、当然職員は減らしていく計画になっています。間違いなく今よりも職員が減ります。でも60歳から64歳の職員の層が増えます。そのため、新しい職員の採用がぐっと少なくなります。若い職員の層が全てではありませんが、20代が非常に少なくなるという、そういう試算となっております。若い人も減ってきますので採用しづらくなることが実態として予想され、若い方が少なくなるという弊害で、将来的な役所の活力とか人材育成とか、そういったところは懸念されているところです。

(委員)

少子化対策は結構ぼんやりとした感じで、どこから攻めたらいいのかとなると思いますが、デジタル田園都市国家構想の話でいくと、『DX』は、はっきりしていて、やることはもう見えていたり、ツールが見えていたりするので、取り組みやすいのかなという印象がしています。

それだけに、時代の流れに続くだけではなくて、時代の流れに先んじて攻めてくということになると、専門性が必要かと思います。けれども、市民生活を送っているとその専門性の部分は非常に遅れているなどというのは自分も感じますし、役所の中でもきっとそうなのかなと思います。戦略を考えるにあたっての専門性の担保みたいなことはどうされるのですか。

(事務局)

専門性の担保っていうのは、それは一人一人の使い方というところでしょうか。

(委員)

一人一人使い方もそうですし、例えば専門的な知識を持っているこういうところに頼っていくとか、このようなデジタルツールを考えているというようなことは必要かと思います。

(事務局)

実際のところ、国のデジタル田園都市国家構想自体が、岩見沢市が先んじて行っているものが結構あると思っています。例えば、スマート農業などは、岩見沢が国よりも先にやっています。このように、逆に国がついてきているようなところもあると思います。



当然ながら、これからも先ほどお話しがあった ChatGPT など、いろんなツールが出てくると思います。そこは市職員もアンテナを高く持って、常に新しいものを取り入れながら事業展開していくことも必要だと思っています。先ほど事業の組み替えという話もいたしましたが、1 回作ってそれで終わりではなく、新しく事業を作り替えていく必要もあると思いますので、今どのツールをとすることは無いですが、常に新しいものを取り入れながら作っていく必要はあると思っています。

(委員)

前回の時もそうでしたけど、やはり人口、特に学卒者等の流出につきましては、地元で働く場とかが少ないといったような考え方がベースにあって、今もそのように思います。

特にここ数年というか、ここ 3 年ぐらいでは、地元企業は求めている人を実は確保できていない。これは業種によって違うのかも知れませんが、そういった実態があります。企業的には、本当はもっと地元も含めて人が欲しいという実態があるので、今度の色々な取り組みの中で素案を作るとき、その辺の実態を一度よく調べていただきたいと思っています。

地元でもう本当に採用に苦労しているといった実態がある中で、今までのように新しいものをどんどん作って、そこに人を置こうっていうのもありますが、現状、もうそのような形の中では非常に課題があるということをもう一度実態をよく調べた中でやっていかないと、いま岩見沢市内にある企業なり組織なりそれぞれが、どのように苦労しているのか、そういったところは、最初の素材としては重要な部分だと考えています。

(委員)

金融機関としては、やはりこの人口の減少と高齢化というものを一番問題視しています。

その中で、働く場の確保ということで、企業への資金繰り支援と、個人に対しては、豊かな生活を実現させるために消費性資金について、各金融機関が積極的に取り組んでおります。

それだけではなく、私どもに限って言えば、今、地域支援部という部署を新たに立ち上げて、企業の資金繰り支援のみだけでなく、販売先の支援や人材育成など、そういったものにかかなり広い分野で組織としてサポートするような取り組みを行っています。

その私達の取り組みが 8 ページの自然動態と社会動態の中で、社会動態の減少には一躍を買うのかなという印象はしますが、一方で、自然動態の観点から見ると、果たしてそこまで私達の取組みの効果があるのか、ちょっと疑問に感じているところです。

この自然動態の減少について、非常に多種多様な要因もあると思いま

すし、難しいと思いますが、行政としては、何が一番ネックになっていると考えているのか、私達も一つのヒントとしてご教授いただけたらなと思います。

(事務局)

この自然減、いわゆる出生数の減少が一番大きいのですが、これに関しては、岩見沢市だけではなくて、もう国レベルの問題で、全国的に出生数が下がっている状況にあります。

これはあくまでも一般論の話にしかありませんが、例えば、コロナ禍の中で価値観の変化ですとか、結婚晩婚化ですとか未婚化ですとか、子供を産まない選択をする方ももちろんいらっしゃると思います。そういったところも色々影響があるのかなと考えられるところです。

岩見沢市としては、まず子供を産みたい方がちゃんと産めるように、例えば不妊治療の全額助成ですとか、あとは子供を産んで育てるにあたっての医療費の無償化ですとか、そういった環境作りをきちんとしていこうと。その他にも、プレコンセプションケアといって、子供を産む前の世代に対しての性教育ですとか、子どもを産んでからの話ですとか、そういったところもきちんと指導していくなど、要するに子供を産み育てる環境をきちんと整えていこう、まずはそういった希望を持つ方に、ちゃんとした環境を整えていこうというところを今やっています。

ただ、出生数の減少の要因がどこにあるかということですが、それがわかれば、出生数がすごい上がるとは思うんですけども、そこが全国的な課題となっているところではございます。

(事務局)

ざっくりばらんに申し上げますが、本当に困った問題です。0.99 っていう書いておりますが、簡単に言えば、出生率とは、一人の女性が一生に産む子供の数の平均です。昔は 2 ぐらいありまして、昭和の団塊ジュニアぐらいの世代までは、1.8 とかそれくらいありました。

それが 1 まで下がっていき、少ないといえば確かに少ないのですが、国全体が下がっているから下がっているだけで、極端に岩見沢が抜けて落ちているというわけでは決してなく、全国で 1.26、北海道が全国で 3 番目に悪い 1.12 です。元々、北海道の率と同じぐらいか、ちょっと低いぐらいだったのですが、それでもちょっと 0.99 はかなり悪いです。

別の資料でも見ますと、5 年前のぐらいの調査で 1.26 あったんですけど、江別 1.15、札幌 1.16、北広島 1.18、南幌 1.21、石狩 1.26、当別 0.96 と札幌近辺のところがおしなべて同じような感じですが、全国がどんどん下がっている中で、北海道は全国よりも常に 0.1 か 0.2 低い水準で、何十年も前から推移してきています。

その中で、特に札幌近辺は、北海道平均をさらに 0.1 か、それに近いぐらいの水準で推移しているということで、地域的な状況も確認というか分析できればいいと思いますが、これはもう地域の体質というか、そのような感じでしか言いようがないのかなというところもあります。

今、事務局が申しあげましたように、地道な努力により、少しずつ回復させるしかないというところですが、国全体の取り組みも含め、何とかしたいという思いを持ちつつ、注意深く対応していきます。でも、ざっくばらんな感じで申しあげますと、困ったなというそんなところがございます。

ちなみに出生数は、西の方がいいです。一番いいのが沖縄で、九州、四国、中国となっており、1.4 とか 5 とか今でもありますので、とにかく北に行けばいくほど、東に行けばいくほど下がるというのはもう何十年前から同じ傾向です。それがわかったところで対策にはなりません、少しずつ色々な要因は確かにあり、そこについて様々な策を打っていきながら、少しずつ効かせていって、0.1 と 0.5 でも平均よりも上げていきたいと思っています。

それから一番大事なのは、多様な価値観の時代ですので、結婚したいと思う方が、例えば経済的な問題とか、相手がいるいないの出会いの問題とか、そういう問題さえクリアできればちゃんと結婚できるということ。それから、子どもが欲しいと思う方が、子供をきちんと産み育てられる社会にすること。そういうことを望まない方は、それは個人の立場としてそれを尊重する、そうした中でやっていくしかありません。

ちなみに、希望出生数といって、結婚している方が、子供を何人欲しいかということと、また、結婚していない方が、結婚したら何人子供が欲しいかというものを足した数値の合計というのは、昔は 2 ぐらいありましたが、今も 1.8 ぐらいをキープしています。

その 1.8 と現実の 0.99 の差というのが、現実と理想の乖離ということになるので、そこを埋めるという努力が必要なのかなと。社会環境・経済環境なども含めて、そのようには思っております。

(委員)

地区によって出生率が違うってことは、社会動態と自然動態っていうのは、密接に関わりあっているということでしょうか。

(事務局)

先ほど、札幌市や江別市は低いと申しましたが、両市とも意外にそんなに危機感を持っていないんです。なぜかという、特に江別なんかはそうですが、出生率は低いのですが、そのうち子供を産んだ親が引っ越してくるんです。たまたま江別で産んでいないだけで、江別に住んでい

る子は結構いるということで、この社会動態としての子供の数っていうのをミックスして考えなければいけないと思っています。

(会長)

はい。大変難しい問題ですけど、いかがですか。

(委員)

少子化とずっと言われていて、色々なことをされていると思うんですけど、何かこれだって思うような、手応えがちょっとあった施策とか、何か仮説とか何かそういう明るい希望はないんでしょうか？

(事務局)

今、お話しした出生数ですが、先ほど江別の話が出ましたけど、実は当市も0歳から14歳まで、あるいはその親の30代から40代の世代の社会動態は結構いいです。確かに出生数が減ってはいるものの、ある程度入ってくる方もいらっしゃると思えば、その辺も色々考えながら取り組みをしていかなきゃいけないのかなと思っています。

やはり、子ども子育てに重点的に取り組んでいくということは、これからは総合戦略の中でも特に必要なところだと思いますので、そこはしっかり考えていかなければと思っています。

(委員)

関連しての話になりますが、当然、出生数・出生率を上げるのは必要ですし、国レベルで考えることですし、岩見沢だけで考えてもあれですけど、ただ、昔からこれは言われていることですが、子どもの数が増えても、まちが元気なるかというところではなくて、子供が成長して、働く年代になると外に出ていってしまう。それを食い止めるにはどうしたらよいかという議論は、ずっと昔からされています。

まちに産業がないじゃないか、そういう議論はずっと過去からされています。やっぱりそこだと思います。出生率を競う策を考えるだけではなくて、それと同時進行で、岩見沢に残ってもらう。それにはまちを元気に、企業を誘致するとか昔から言われていることですが、そういうところにも力を入れていかなきゃならないし、やはりそのためには、いまの高校まで医療費無料化ということも当然必要なんですけども、あまりそこばかりに着目していると、みんな成長したときには、「どうもありがとうございました」と出ていってしまう。それでは何も意味がないということになります。このままいくと、私どもも介護事業もやっていますが、肝心なところに人がいなくなってしまうと思います。医療も介護も、そ

れから道路・橋を維持する人もいなくなる。自分のまちで何か維持しようと思っても人はいない。そういう状態になってしまう。その辺を考えながらいかないと、出生率を上げる策はどうだろうと、そこばかりには着目できない。まちを活性化して、何とか若者が残ってもらって、できるだけ欠けている職種への就業もしてもらって、そういうところを総合戦略で考えていかなければならないと思います。

(会長)

そのとおりだと思います。やっぱり市民が安心して暮らせる、豊かなまち岩見沢ってというのが最終目標だと思いますから、そこにはもう子供からお年寄りまで、全て包含された上での総合戦略の策定だと思っておりますので、そういった視点を大事にしながら、今後の会議等についてもご意見をいただければと思います。

(委員)

ちょっと口幅ったい話かもしれませんが、出生率であるとか人口定着の問題があるとかってところで、先ほど定年延長のお話があって、その中で60歳から64歳の方が増えて、若い方がほとんどいない状況になってしまうといったところが、さらっと流れた部分があったと思いますが、例えば、60歳の方が残り後5年間でそこで過ごせて、市に残していける財産と、その方がいないけど18歳の子が5年間、市にいることによって、例えば結婚し、子供も生まれ、人口も多少増えるといった可能性がある場合、どちらが人口・出生ということに対して可能性があるかといった時に、僕はそういうところの身を切る部分というの、多少は考慮に入れながらというのは、今後必要になってくるのではないかと思います。

日本は、世界各国から見ても一番、少子高齢化が進んでいますので、それがどうクリアできるかという問題はあると思いますが、やっぱり地方に仕事を作り、その仕事につきたい若者を増やし、若者を増やすことによって、そこで子供を産み、子供を育て、教育を通して地域に還元していくといったことを考えた場合に、例えば、働き方改革の問題や、老後も2,000万かかる中で、60歳定年で終わってどうするのかということがあり、これからリスキリングという形でさらにもう一度、60歳から再教育して新しいスキルを身につけていくというようなケースも出てくると思いますが、ただ実際は、人数として考えた場合に、その5年間という時間を、若い人間に費やすのか、ある程度キャリアを持った人間に費やすのか。それが果たしてそのまちにとってどういう影響を及ぼすのかといったところも含めた場合に、そこもやっぱり身を切る覚悟の一つとして考えていかなければいけないと思います。

先ほども言いましたが、柔軟性というところをもっと幅広く考えた中で、やっぱり身を切る覚悟というのは、まず隗より始めよといいますが、自分たちからまず始めることで、市民に示していくといったこともまた一つ必要な部分ではあるかなと思います。あくまでも意見なんです、世の中の流れがそのままどうかっていうとそうでもない部分もありますので、幅広く柔軟性を持って考えていただけたらと思います。

(事務局)

人事の話ではありませんが、私も断然若い人のほうがいいと思います。

(委員)

若い子を採用したくてもなかなか来ないという中で、何が必要なのか、それはやはり生活していける余裕というのをどう提示してあげられるかであって、そういうことは一般企業だけではなく、全市を挙げて取り組んでいくということが必要なのではないかなと思います。

(事務局)

パラレルなんです、高齢の方が働く場を確保することで若い人が入りづらくなるということもそうですが、それ以上に、そもそも人を採りたくても、先ほどお話が合ったように採れなくなってくるような時代が来る、そちらの切実感が大きいのかなと思っています。

通常、これが進むと高齢者人口が増えてくると同時に、生産年齢で真ん中辺の人口が出てくるというところで人手不足が出てくるという。これは何人かもうご指摘されているように、もう現実にこの地域ではもう既に起きているということ。いただいた各委員のご意見も踏まえますと、次の総合戦略の中では、その担い手というか、考え方っていうのはもう少ししっかり考えるべきなのかなというふうに思っていますので、今後、議論させていただきたいと思っています。

(会長)

はい。全て相手のある話ですから、自分の考え方だけで物事は進まない、相手が何を考えているんだろう、あるいは何を望んでいるかという辺りの把握は必要だと思います。大変難しい問題ですね。

(委員)

労働者の数の話をすると、人口が減っているから職員減らすというのは、少し違うのではないかと思います。必要な仕事があって、そこにしっかりと労働力の確保をしていかなければいけないと考えているので、単純にその人口が減ったから退職して減らせばいいという問題ではない

と思います。

今後、少し恐ろしいというか、我々が危惧しているのは、今、人事院で週休3日制を検討し始めていて、これは何をしたいのかなと我々も考えていたら、だんだん仕事の量を減らして行って、我々の正規雇用という身分も、どんどん不定期に、非正規で働いてる人に近づけようとしている。我々は、非正規を引っ張ろう、上げようと思っているのですが、どちらかという、だんだん我々の身分がそちらに寄っているような感じになってきています。

それを考えると、今後、我々の雇用というか、仕事の質とか量とか身分とかというのは、だんだん変わってくるのかなということがあり、我々としては少しでも安心して生活するために、きちんとした賃金であるとか、待遇というのを求めていかなければいけないのですが、だんだんそちらになっていくのかなと思います。

そうすると無理やりというか、人口が減っているから職員数を減らせという話にはなっていないのかなと。だんだん緩やかにそのようになっていくのかなと思うところではあります。

あと一つ、出産数が少ないという話をしているのですが、今、女性に求められていることって、子供を産め、そして社会に進出して管理職になるってもう言っていることが矛盾していると思います。これをどうしたら解消するかといったら、もう男性側も子育てするのが当たり前、家で家事するのが当たり前というように意識が変わっていかないと、絶対これは出生数が上がっていきようがないと思います。だって、出産する年代とキャリアを積む年代が同じで重なっているんです。だからこうなってくると、女性と一緒に働く男性も意識を変えて行って、女性は女性にしかできない役割があって、男性には男性にしかできない役割があるので、お互いで子供を増やさなければという意識も変わって、その上で増やしたい人をちゃんとその岩見沢市に呼び込むことで増やしていくとか、産みたい気持ちがあるけどという人には、どんどん支援をしていくっていう方向にしないと、産みたくない人にも産めと言っても仕方がないので、そこら辺はしっかりと考えていかなければいけないのかなと思います。

(委員)

例えば、KPIとして男性の育休獲得率ナンバーワンなどというのもあると思います。

(委員)

今のお話に関連しますが、子育てとか子供を産むと、お母さんは仕事を辞めなければいけないとか、ちょっと減らさなければいけないという

ので、自分の自由になるお金が減ってしまうというか。やはり子供を産むことで、収入額がぐんと減るということは、少子化対策には半分反対側にいくことだと思います。女性が子供を産んでも、収入が減るよりむしろ上がるってような仕事をこの地域でどんなふうに確保していくかっていうことが大事なと思います。

国が言っている感じだと、女性を出世させるとか、管理職にみたいなこと言っていますが、周りのお母さんたちは、そのようなことあまり望んでいなくて、子育てをちゃんとしたいとか、子どもに十分なものを買ってあげるためにお金が欲しいといった考えでやってらっしゃる方が多いので、一概に、仕事がどうのとかという話にはあまりならないかなと思っています。岩見沢のローカルならではの女性の何か声をちゃんと聞いてほしいと思います。

(会長)

市の部署の中には、男女共同参画のセクションがあり、その中でも色々な論議がされていると思います。いずれにしても、その辺りの上手なバランスの取り方は、これからとても大事になるだろうと思います。

さて、一時間過ぎましたが、その他、いかがですか。これはぜひお話をしておきたいということがあればいただきたいと思います。

(委員)

話が全く変わりますが、札幌市の豊平区にカーリングのスタジアムがあり、予約が満杯で取れないというほど、今、カーリングは競技人口がどんどん増えてきています。

今年1月25日の会議の中で、人の流れということで、岩見沢にもカーリングのスタジアムはどうだろうかということを提案したのですが、もし引き継ぎを受けておられれば、結論はどうであったのかちょっとぜひ聴きたいなと思いました。

(事務局)

すぐどうこうできる話ではありませんので、現在、動いているということはありません。

屋内の体育施設ですとか、色々な公共施設をどのように配置するのかというのは、常に考えているところでもあります。

その一方で、かなり経費がかかるということもありますので、ご意見としていただいた中で、カーリングがいいのかっていうことも含めて、担当である教育委員会と一緒に体育施設全体の中で考えてまいります。



<p>6 その他</p>	<p>(会長)</p> <p>引き継ぎはされているという解釈と思います。</p> <p>だいぶ時間も経ちましたので、岩見沢の総合戦略について、このことはというご質問ご意見があればお願いいたします。</p> <p>特になければ、その他といたしまして、委員の皆さんあるいは事務局の方から何か連絡事項等がございましたらいただきたいと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>特にございませんが、次回の会議につきましては、改めてご案内させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>(会長)</p> <p>はい。私から1点あります。今日は大変色々な意見出ておりますので、委員の方からこういう意見があったということを、できれば次回の資料を配るときに一緒にいただければ、そのことを思い出しながら、次の会議ができると思いますので、そういう形で進めさせていただければと思いますが、いかがですか。要約版で構いません。</p> <p>(事務局)</p> <p>概要版をご用意させていただきます。</p> <p>(会長)</p> <p>本日の会議については以上で終了とさせていただきます。</p> <p>次回の開催については、事務局と相談させていただいて、改めてご案内をさせていただきます。</p> <p>一応、次は11月頃ということで、スケジュールには載っておりますので、それを参考にしながら調整をさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、以上で終了させていただきます。</p> <p>本日は大変長い時間ご苦労様でした。</p>
<p>7 閉会</p>	